



アドマイヤー®プラス フロアブル

夏場で決まる！
チャノキ防除の強力助っ人
アドマイヤー®「プラス」で決める！



チャノキアザミウマ



ゴマダラカミキリ



コナカイガラムシ類



アブラムシ類



カメムシ類

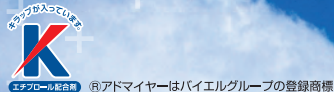


ミカンハモグリガ

A+ アドマイヤー® プラス



6月中旬～7月の
散布がおすすめ！



手ごわいチャノキアザミウマも、しっかり防除。
みかん畑の夏場のお悩みは、アドマイヤー®「プラス」ですっきり解消。
すくすくきれいなみかんの収穫にお役に立ちます！

特長① 作用性の異なる殺虫剤の混合剤で、従来の薬剤に感受性の低下したチャノキアザミウマに対して優れた効果を発揮します。

特長② 幅広い殺虫スペクトラムを有し、6～7月のチャノキアザミウマの対策剤として、ゴマダラカミキリ(成虫)、ミカンハモグリガ、アブラムシ類等主要害虫の同時防除が可能です。



製品情報の詳細は
こちらから



自然に学び自然を守る



適用害虫および使用方法

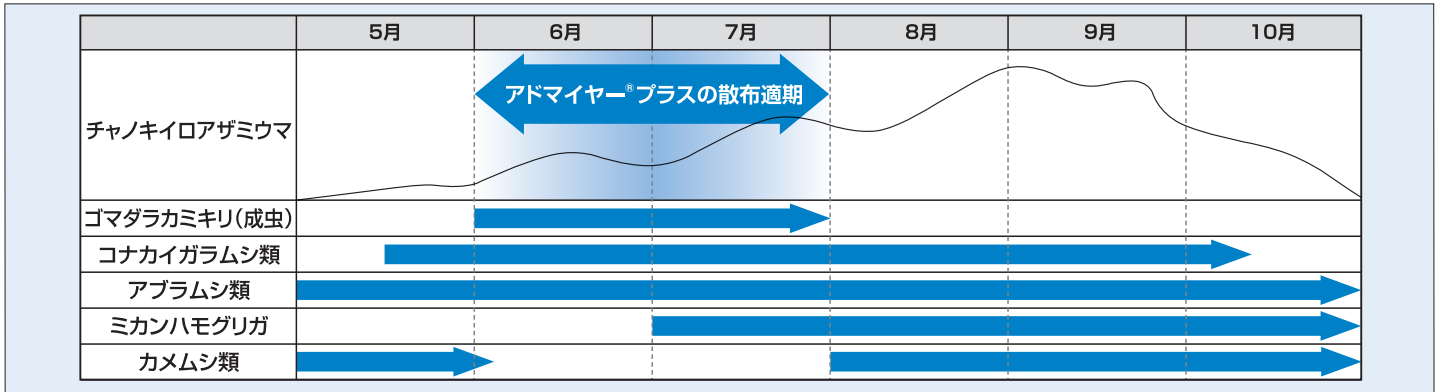
2021年10月現在の登録内容

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	10アール当り使用量(ℓ)	使用時期	使用回数*	使用方法
かんきつ	コナカイガラムシ類	2,000	200~700	収穫21日前まで (ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	本剤：2回 イミダクロプリド：3回 エチプロール：2回	散布
	アザミウマ類 アブラムシ類	32	4~7.5			
	カメムシ類	40~50	7.5~15			無人航空機による散布
	ゴマダラカミキリ成虫	100	15~30			
	ミカンバエ成虫	200	30~50			
	ミカンハモグリガ					

*印は収穫物の残留回避のため、本剤およびそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

上手な使い方

チャノキイロアザミウマの防除が最も重要な時期にあたる、6月~7月の対策剤として最適です。

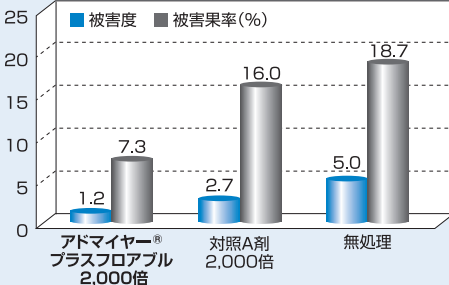


試験成績

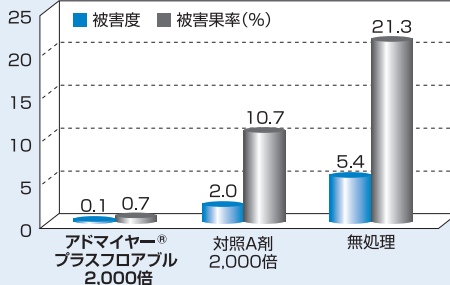
2009年 神奈川県農業技術センター足柄地区事務所根府川分室

チャノキイロアザミウマ

■ 果梗部被害



■ 果頂部前期被害



品種：青島温州(25年生、露地)
発生：少発生
区制：1区5樹(うち3樹を調査)
処理日：7月13日、8月12日、9月15日
処理方法：動力噴霧器で10ℓ/樹散布
調査方法：
10月15日に1樹50果について果梗部および果頂部の被害を調査(果頂部後期被害は無処理区でも発生なし)。

対照A剤2,000倍散布と比較して高い防除効果が認められました。

混用事例

アドマイヤー®プラスフロアブルとの散布での混用によって、薬害が認められなかった事例です。なお、気象条件、栽培条件、生育ステージ、品種などにより異なった結果が得られることも予想されます。下記事例は、使用の安全性を保証するものではなく、あくまでも参考事例としてお取り扱い下さい。

【殺虫剤】

アブロードエースフロアブル キラップJ水和剤 ダニエモンフロアブル ハーベストオイル
アブロード水和剤 クミアイアタックオイル ダニゲッターフロアブル ハチハチフロアブル
アブロードフロアブル コテツフロアブル ダニコングフロアブル パロックフロアブル
エクシレルSE コルト顆粒水和剤 ダニサラハフロアブル マッチ乳剤
オマイト水和剤 コロマト水和剤 ダブルフェースフロアブル
オリオン水和剤40 サンマイト水和剤 テルスター水和剤
カスケード乳剤 スピエースフロアブル テルスターフロアブル
カネマイトフロアブル スプラサイド乳剤40 トランスフォームフロアブル

【展着剤】

アピオン-E まくびか

【殺菌剤】

アリエッティ水和剤 デランフロアブル
イオウフロアブル ナディーボフロアブル
エムダイファー水和剤 ナリアWDG
キンゼット水和剤 ハレード15フロアブル
キンゼット水和剤80 ファンタジスタ顆粒水和剤
コサイド3000 フロンサイドSC
サルファーソール ベンコゼブ水和剤
ジマンダイセン水和剤 マネージDF
ジャストフィットフロアブル ランマンフロアブル
スイッチ顆粒水和剤 ロブラール水和剤
ストロビードライフロアブル

作物への安全性

以下の品種では薬害が認められませんでした。

青島温州	林温州
湘南ゴールド	興津早生
豊福早生	富川早生
伊予柑	川野夏橙
南柑20号	宮内伊予柑
大津八号	

注意事項(抜粋)

- 蚕に対して長期間毒性があるので、絶対に桑葉にかからないようにして下さい。
- ミツバチおよび野生ハナバチ類に対して影響があるので、以下のことに注意して下さい。
 - ① ミツバチの巣箱およびその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないで下さい。
 - ② 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めて下さい。
 - ③ 開花期終了後に使用する場合、適用作物の花弁の大部分が落下または乾燥するか、花が閉じてから使用して下さい。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守って下さい。
 - ① 散布は散布機種種の散布基準に従って実施して下さい。

- ② 散布に当たっては散布機種種に適合した散布装置を使用して下さい。
- ③ 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行って下さい。
- 医薬用外劇物。取扱いには十分注意して下さい。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせて下さい。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けて下さい。
- 散布の際は防護マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用して下さい。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをして下さい。
- 使用残りの薬液が生じないように調製し、使いきって下さい。散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないで下さい。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理して下さい。

● 使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ● ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ● 本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

2023(21-10)